

開催にあたって

事務局長 菅原 伸一

平素は、東日本建築教育研究会を通じて諸活動でお世話になっています。

2013年の都道府県理事会にて、2020年に秋田が開催地として決定し、あっという間に7年が経ち、70回目の記念大会の開催に向けて準備を進めてまいりました。

しかしながら、ご存じのように未知の感染症との戦いとなり、今に至っています。諸準備を進めてきたことから、なんとか現地開催の可能性を残し、1年2年と延期を決定しました。教育関係者の大会でもあり、より安全安心して開催できる状況にならないと開催の確信が持てないため、3月上旬には秋田大会実行委員会として検討し、本部主査会でも承認され、今大会は感染症拡大防止の観点より、総会は書面決議で、研究協議をオンライン配信でおこなうWEB大会で実施する運びとなりました。2013年からすると9年越しということになります。

本来であれば、多数の関係者の皆様が秋田にお越しいただき、建築教育に花を咲かせ今後の指導に生かすと共に、秋田の恵まれた自然や多彩な食文化を堪能していただく絶好の機会であったことを考えると、誠に残念でなりません。

今大会はWEB開催となりましたが、例年並みの大会内容となるように充実を図り、準備をいたしました。2015年には秋田県・秋田市・JR東日本の3者による「地方創生に向けたコンパクトなまちづくりに関する連携協定」を締結し、2017年には「ノーザンステーションゲート秋田」プロジェクトがスタートし、その代表格として小杉先生の市街地木質化実証モデル事業が進み、生まれ変わってきています。大会テーマ「木の国秋田 温もりを次世代へ」にも沿った取り組みであります。小杉先生の取り組みから、建築が変われば街や人がどう変わっていくのか。また、工業高校教員として初の南極地域観測隊員で参加してきた須田先生の、南極から見た地球の発表も興味を沸き立てます。

本大会としては初のWEB開催となりますが、秋田色を前面に出し、研究協議会の意義を感じられる地方大会となるように務め、今後の開催へのモデルケースとなるよう、実行委員会一同で準備いたしました。ぜひ、秋田に触れるひとときをお過ごし下さい。